

公益社団法人石川勤労者医療協会

2022年度法人事業報告

(2023年6月25日 第72期社員総会で承認)

I、はじめに

2022年度は 世界情勢を反映した物価高騰と新型コロナの爆発的感染拡大が医療介護事業所の事業と経営を直撃した1年でした。物価高騰に対しては、県医師会と県病院協会が県からの支援を求める要望書を提出しました。石川勤医協も独自に要望を行いました。

昨夏の新型コロナの第7波は、爆発的感染となり、石川勤医協の事業所でも「大規模クラスター」が複数発生しました。このため、入院患者の受け入れの一時停止、介護サービスの一時休止などの措置を取らざるを得ませんでした。職員自身も極度の緊張と疲弊の中で勤務継続となりましたが、県連の指導援助の下、収束を迎えることができました。

第8波の収束をうけ、2023年5月8日より新型コロナの法律上の分類が2類から5類に変更されました。しかし、いかに「with コロナモード」になっても、患者・高齢者に日々接する医療・介護の現場では、これまでの感染対策体制を解除できる訳ではありません。今後も慎重な感染対策を継続する必要があります。

II、2022年度の「4つの重点課題」の到達と評価

2022年度は「4つの重点課題」を掲げました。

第1は「地域の人々の抱える困難を打開する事業・地域活動を進める」です。2022年10月からは、一定以上の所得のある75歳以上の高齢者の医療費窓口負担の2倍かは実施されました。石川勤労者医療協会は、公益法人の社会的使命として、経済的困難、生活困難を抱える方々に寄り添い、その打開の方策を探る活動を健康友の会の皆さんとともに継続してきました。また記者会見などの方法で「医療介護の現場の実態」を社会的に発信してきました。

第2は「医師の確保と養成、とりわけ既卒医師の確保を担当者を配置し進める」です。今春は3名の初期研修医を受け入れました。また兼務ではありますが既卒医師確保担当を決め、毎週の打ち合わせを持ち進めました。常勤医師1名、非常勤医師1名（外来パート支援は除く）を迎え入れることができました。

第3は、経営困難の打開です。2022年度はコロナ関連補助金を含めて赤字決算となりました（詳細は第2号議案でご報告します）。城北病院では昨夏、冬と連続してコロナ感染症の大規模クラスターが発生し、長期に渡る診療制限を行いました。また育児休業や病気休業者の増

加による看護体制の困難が継続し、城北病院での入院制限も継続しています。2022年度は入院収益の大幅予算乖離もあり、債務超過解消に向けた計画的な経営改善はまだ成果をあげられていません。

第4は、法人の活動にともなう二酸化炭素などの排出量の評価（CFP）です。これについては照明をLEDに変更するなどに留まりました。2023年度は、リーディングケースとして、まず一つの事業所の一つの分野で、具体化を図ります。

Ⅲ、2022年度の特徴的な取り組み

1) 医師体制

2022年4月は4名、今春は3名の初期研修医を迎え順調に研修をすすめています。既卒医師は2022年4月からの常勤小児科医の受け入れ1名があり、2023年4月より常勤医師1名（寺井病院・手取の里）非常勤医師1名（上荒屋クリニック）を迎えました。一方、石川勤医協の創成期から法人の事業を支えていただいた医師3名が勇退されました。

2) 医科事業

- ・ 外来患者数は、コロナ前の2019年度の水準を回復できていません。3年余に及ぶコロナ禍と長引く経済不況で、患者の受診動向にも変化が起こっていることが推察できます。人口動態としても、石川県の全医療圏で、人口減が進んでいること（別表⑧）は客観的事実ですし、主体的要因としても医師体制の困難や医師の働き方改革、外来パート数も減少しています。
- ・ 年度当初、外来への通院だけでなく、在宅医療、健診活動も含めて「外来機能」を広くとらえようと呼びかけました。友の会との共同で様々な取り組みが継続しています。
- ・ 城北病院におけるベッド稼働率の低下が顕著となりました。コロナの影響や看護体制の困難とともに、患者、家族、高齢者施設側の医療やケアに対する意識動向の変化なども背景にあります。医局職責者会議での議論を通じて、全職場から増収や業務効率化等様々な前向きな提案がだされ、具体化を進めています。
- ・ 上荒屋クリニックグループの中期構想の検討は当該事業所管理会議内での議論に留まりました。

3) 介護事業

- ・ 介護職員確保の困難が続き、グループホームなが穂の里は、2022年度末で、たぶのきデイサービスは2022年4月末で事業廃止しました。

- ・事業の継続のために、医科事業所併設の介護事業の再編の問題提起を行いました。羽咋診療所はじめ一部事業所での再編の議論が進んでいます。

4) 無料低額診療事業

法人全体としての利用率10%超を目指しました。2022年度は8.8%となりました(21年度は9.9%)。無料低額診療利用者の増加は、コロナ禍の下の生活困難、経済困難影響とともに、私たち自身の地域活動の強化の反映でもあります。

5) 新健生クリニック建設は、医療介護基本構想の議論が開始されました。

- ・県連に「金沢市南部地域医療介護福祉検討プロジェクト」が発足し、単に「健生クリニック」「建て替え」に留まらず、南部地域の今後の医療介護福祉構想総合的の検討が開始されています。
- ・同時に、建設自体は、様々な困難に直面しています。外的要因としては、①コロナ禍の下での建設運動であること。②世界情勢も反映した建設単価の高騰です。内的要因としては①医師体制と法人の経営困難、②資金確保と土地確保の困難です。
- ・様々な困難は、友の会と事業所・職員の共同の運動によって克服し、新健生クリニック建設を成功させます。

6) 職員等の確保と育成

- ・医師については前述の「Ⅱ、2022年度の4つの重点課題の到達と評価」をご覧ください。2023年4月1日現在の、石川民医連奨学生は8名です。コロナ禍の影響もあり、奨学生との面談や朋共に集う機会が減少しています。
- ・看護学生についても、コロナ禍の下、臨床実習の経験が減少しています。また入職後も病院自体がコロナ対応に追われ、新人看護師の教育研修に困難をきたしている状況もありました。
- ・介護職員は、2023年4月は、新卒者の受け入れはありませんでした。介護福祉士養成校への入学者自体が激減しています。

医学生の石川民医連奨学生(4/1現在)			
	金沢大	金医大	県外
6年		1	1
5年	1	1	
4年	2	1	
3年			
2年			
1年			1

7) 歯科

- ・前年に比し歯科医師数は減少しましたが、各歯科医師の診療単位数の拡大により、医療活動を維持してきました。歯学生の奨学生は、県外大学に4年生1名、2年生1名です。

6) 友の会との共同の取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症が、第6, 7, 8波と断続的に感染拡大が続きました。その下でも感染拡大防止に細心に注意を払いながら、健康づくり運動や地域訪問活動に取り組みました。コロナ禍で希薄になった人と人との結びつきの快復を進めました。
- ・石川県健康友の会とともに地域住民や、各事業所の、患者・利用者、職員に対する健康づくり・ヘルスプロモーションに取り組みました。
- ・安心して住み続けられるまちづくりを目指し、「1支部1まちづくり」に取り組みました。
- ・いしかわまるごと健康チャレンジにとりくみました。参加総数は2500名に上りました。
- ・これらの取り組みを通じ、仲間増やし、担い手づくりをすすめました。元気誌読者は前年より78人減少しました。、会員は新たに1141名の新規会員を迎えましたが退会もあり、実働は486名の減少となっています。
- ・各事業所での事業所利用委員会などの定期開催を進めました。一部にまだ開催できていない事業所が残されており、法人からの援助を強めます。

7) 資金結集

- ・寄付金は2,364万円（目標1500万円）をお寄せいただき、目標を超過達成しました。その背景には私たちの事業への共感、信頼があります。
- ・協同基金は8,749万円（同1億円）をお寄せいただきました。同時に昨今の経済困難も反映し解約も増加し、協同基金の実増は1155万円に留まりました。（協同基金の寄付金への切替えもあります）。
- ・協同基金の状況は右表のとおりです。
- ・職員の協力者（①+②）は、全職員の32.3%です。○職員含む友の会会員の協力者（③）は全会員の5.9%、全会員世帯の12.5%です。少額であってもすべての会員から協同基金の協力を頂くことを展望し、当面2023年度の目標として

協同基金の状況	(人)	
職員の積立	288	①
職員の単発	84	②
会員の積立または単発	2,587	
計	2,959	③
(2023年3月末)		

○全職員の50%

○全友の会世帯の15%

をめざします。

・ ・ ・ ・ ・ 2022年度法人運営資料 ・ ・ ・ ・ ・

① 総会開催

2022年6月26日（日）開催。会員総数178名中、出席会員数159名（うち委任状91名）。

② 理事会開催 （ ）は出席者数

5月28日 第1回理事会（理事20名 監事3名）総会議案
 6月11日 第2回理事会（理事20名 監事3名）総会議案
 7月23日 第3回理事会（理事21名 監事3名）医師体制
 9月24日 第4回理事会（理事20名 監事3名）新健生クリニック建設
 10月22日 第5回理事会（理事19名 監事3名）共同組織強化発展方針
 12月24日 第6回理事会（理事20名 監事3名）予算編成方針
 2月25日 第7回理事会（理事18名 監事3名）事業計画、予算1次案
 3月26日 第8回理事会（理事17名 監事3名）事業計画、予算の決定

③ 監事による監査

期中監査 2022年11月15日～12月18日 本部と全事業所

期末監査 2023年 5月25日～ 5月26日 本部と全事業所

④ 法人会員の動態

【退会】3名、 【入会】 1名、 【会員数】 174名（2023年3月末現在）

	奥能登	能登 中部	金沢北	金沢南	金沢西	南加賀	小松 南部	本部	計
地域	8	10	22	16	12	15	5	6	94
職員	4	4	26	9	7	12	2	16	80
計	12	14	48	25	19	27	7	22	174

⑤ 前回定時総会以降の法人会員の物故者

・ 鍋野正道さん（2022年9月9日ご逝去）

2009年から2015年の6年に渡り、法人理事及び監事を担われました。

健康友の会活動でも活躍されました。

⑥ ２０２２年度の無料低額診療の動態

	延利用件数	前年差
生活保護	24,511	▲ 2,084
無料定額診療	5,716	▲ 3,116
計	30,227	▲ 5,200
対総延患者比	8.6%	▲1.3%

無料定額診療事業実施状況調査が、１１月４日（金沢市）、１１月３０日（石川県）に行われました。

⑦ ２０２２年度の友の会活動の動態

	奥能登	能登 中部	金沢北	金沢南	西	金沢東	南加賀	県連/県 外	合計	前年差
入会数	86	50	305	286	202	55	156	1	1,141	120
退会数	224	132	412	326	199	71	228	35	1,627	▲ 709
実増減	▲ 138	▲ 82	▲ 107	▲ 40	3	▲ 16	▲ 72	▲ 34	▲ 486	589
現勢	6,154	5,338	13,084	6,640	7,555	2,173	8,287	545	49,776	▲ 441
現世帯数	2,819	2,850	6,085	2,893	3,725	946	4,045	347	23,710	▲ 263
新支部結成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支部現勢	4	7	10	6	4	0	8	0	39	0
班現勢数	19	26	45	41	19	2	30		182	▲ 10
班会等開催累計	284	298	551	356	345	17	243		2,094	▲ 351
地域参加累計	1,770	1,162	5,294	2,805	4,946	56	1,830		17,863	207
班会職員参加数	12	102	632	125	206	15	160		1,252	57
健康チェック実施回数	4	0	5	4	3	0	0		16	6
健康チャレンジ参加者数	2500									▲ 843
元気誌現勢数	212	217	627	328	213	60	228	28	1,913	▲ 81
元気誌増減(対前年比)	▲ 7	▲ 6	▲ 23	▲ 12	▲ 12	▲ 3	▲ 12	▲ 3	▲ 78	
取扱所増減	0	0	▲ 1	▲ 1	0	0	0	0	▲ 1	▲ 3
現取扱所数	4	8	36	20	6	1	14	1	90	▲ 3
退会の内訳	退会理由		数	%						
	転居等で住所不明		755	46.4%						
	死亡		420	25.8%						
	退会申し出		277	17.0%						
	不明		175	10.8%						
	計		1,627	100.0%						

⑧ 石川県の医療圏別人口動態予測

2020年は国勢調査の数値、2025年は日本医師会の地域医療情報システムより								
石川中央					南加賀			
年齢	2020	2025	増減		年齢	2020	2025	増減
0-14	92,607	88,403	-4,204		0-14	28,417	26,439	-1,978
15-64	429,273	434,988	5,715		15-64	126,586	120,601	-5,985
65-	207,440	202,112	-5,328		65-	69,091	67,169	-1,922
計	729,320	725,503	-3,817	0	計	224,094	214,209	-9,885
能登中部					能登北部			
年齢	2020	2025	増減		年齢	2020	2025	増減
0-14	11,630	10,799	-831		0-14	4,442	3,624	-818
15-64	58,843	54,688	-4,155		15-64	26,681	22,086	-4,595
65-	47,525	46,034	-1,491		65-	29,991	27,425	-2,566
計	117,998	111,521	-6,477	0	計	61,114	53,135	-7,979
県合計								
年齢	2020	2025	増減					
0-14	137,096	129,265	-7,831					
15-64	641,383	632,363	-9,020					
65-	354,047	342,740	-11,307					
計	1,132,526	1,104,368	-28,158					